言語・文学委員会人文学の国際化と日本語分科会（第 24 期・第９回）議事録

開催日時：2020 年８月２５日（火）１０時～１２時０４分

場所：Web 会議

出席者：窪薗晴夫、桑原聡、竹本幹夫、田口紀子、巽孝之、沼野充義、日比谷潤子、平田昌司、松森晶子、米田信子、吉田和彦

事務局：牧野敬子

・前回議事録の確認

・2020 年 7 月 19 日の本分科会第 8 回の議事録を確認した。

議題

（１）　前回議事録の確認

前回議事録の最終確認が行われ、訂正なしで了承された。

（２）　提言素案について

最初に分科会長より資料「人文学研究の国際化と日本語提言素案一覧」により詳細な説明があった。それに基づき何を素案として取り上げるかについて議論を行った。

主な内容は以下の通り。

・「提言素案」には本分科会の議論の範囲を越えるものもあり、整理が必要。

・政策提言の目標について共通理解が必要ではないか。

・「教育研究行政」についての提案が多いが、語学・文学系に固有なものでは必ずしもないものがある。本分科会の権限に限定するかどうか本分科会の立場を明確にする必要がある。いずれにしても提言は明確かつインパクトのあるものが望ましい。（本分科会の議論を越えることになるが、例えば、「プロジェクト『ジンブン（又は JINBUN）』」といったプロジェクトを立ち上げるなど）。

・論文等のリポジトリー化については分野・組織によって濃淡はあるが概ね進んでいることを確認。しかしながら海外から見た場合人文学研究の研究情報の一元化が進んでいないことが指摘された。CiNii などの学術情報データベースの使い勝手の改善、ワンストップサービスの向上が必要。

・教育研究行政についての提言では若手の育成に重点が置かれすぎている印象がある。（これについては賛否両論あり。）

・日本語で発表された過去の優れた論文等の英語化を図るべきではないか。（賛否両論あり。）

・日本語・日本文化の研究者が海外における当該分野の研究状況を知らないことが問題としてある。日本の議論と海外での議論との間に溝があることが国際化を阻

んでいる一要因。

・外国語による発信が重要であることは大前提ではあるが、日本語でしか伝えられないことがあるのではないか。

・日本語・日本文化の特性については外国語で表現できるし、すべきではないか。

・これらの問題に共通する課題として、研究成果の共有化、人文知の共有こそが最も重要ではないのか。

以上の議論を踏まえて分科会長より、「人文知の共有（をめざして）」（情報収集・情報発信を含む）を共通テーマとして今後（拡大）WG で議論し、9 月中に分担を決める方向でどうかという提案があり、異論なく承認された。

（3）　次期への申し送り事項の確認について

分科会長より資料に基づいて説明があり、一部訂正を行い、承認された。

（4）　シンポジウム成果報告の進捗状況について

分科会長より資料に基づいて変更点等も含めて説明があった。次回の（拡大）WG でさらに原稿締め切り等の細部を確認することとした。

（4）その他

・（拡大）WG を 9 月 13 日（日）13 時に開催することとした。